
桜吹雪

寿々

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜吹雪

【Nコード】

N8172A

【作者名】

寿々

【あらすじ】

日番谷冬獅郎メインの話。市丸が日番谷をねらってる・・・？って
いうかんじの薄くblueが入った話。

（前書き）

話の内容がかみ合っていないかも知れませんが
そこそこ警戒して読んでください・・

ここは十番隊の隊舎

ここにいるのはその名のとおり、十番隊の連中。

そして、十番隊隊長、日番谷冬獅郎。

「おい。松本……。この報告書、どうなってるんだ……」

日番谷が副隊長の松本乱菊に聞く。

「どうって、報告書は報告書ですよ？」

「そーじゃねえ、なんか濡れてて読めねえじゃねえか……。って……あ！お前もしかしてまた十一番隊の奴らと酒を……。！？」

「ちがいますー。十一番隊じゃありません」

「ほーお……。じゃ、どこの隊と飲んでたんだよ……」

「たしかあ……」

「三番隊やろ」

扉にもたれかかった姿で現れたのは三番隊隊長市丸ギンだった。

「市丸……。てめえなんの用で来た」

市丸は肩をすくめて、狐のような目で、日番谷を見た。

「べつつにー。ちよつと通りかかっただけですわー」

その言い方が気に入らなかったのか日番谷はぎろりと目をむいて、市丸をにらみつけた。

「そんな怖い顔せんでもええやないのー」

「うるっせえ……。副隊長も連れずにこんなところに来る理由なんざねえだろうが」

「そんなことはないで。理由ならちゃんとある」

にやにやした市丸がますます気に入らなくなった日番谷は、机を叩いて退場命令をだした。

「いますぐでてけ！！！！馬鹿野郎！！！！」

これにはさすがの市丸もちよつと驚いたみたいだ。市丸の隣で、市丸以上にびっくりしている乱菊の姿があった。

「そないに大きい声で怒鳴らんでもええやないの。十番隊長さんは怖いわあ・・・。ほな、帰らしてもらおか」

歩き出そうとした市丸は思い出したようにこっちに向き直って足を止めた。

「ボクがここにきた理由って知りたい？」

「ハン。んなもん知りたくねえよ」

「そつか、残念やなあ」

ほんとに残念そうな顔をして市丸は出て行つた。日番谷はせいせいしたような顔で扉のほうを見ていた。

「・・・なのかな・・・」

「あ？どうした。松本」

乱菊はソファーに座つてちよつと考えた。

「いやゝ。ギン・・・じゃなくて市丸隊長が何で来たかをですね・・・」

「どーでもいいだろ。そんなこと」

「隊長が目当てじゃないでしょうか？」

日番谷は持つていた湯のみを落としそうになった。慌てて机の上に置くと乱菊のほうをむいて目を真ん丸くさせた。

「なっ・・・なな・・・なんでだよ！！！！何で俺！？」

「なんとなくですつてばゝゝVV」

「てめえ・・・俺をからかつてるだろ・・・」

「ええゝゝしてませんよゝゝそんなことおゝゝ」

「うそつけ！！！！」

「あ・・・桜咲いてますよ」

乱菊の言つとおり、外には桜が満開だった。

「ギン・・・じゃないや、市丸隊長と見た桜もきれいだったな・・・」
その横顔を見てちよつと反省した日番谷は気まずそうな顔をした。

「じょーだんですよ〜だ!」

「はあ!?!」

意地悪そうに笑った乱菊はまたソファアのほうへ戻っていった。

「だって一緒に桜なんか見てませんもん」

「あ〜も〜すんごくイライラする!」

「あははははっ!」

「笑うんじゃねえッ」

疲れたな・・・

つたく・・・市丸のヤロウ・・・

でも、松本が言ってたことは本当かもしれない。

じゃあ、俺はどうしたら良いんだろう?

まあ、普通に接してりゃ何にも問題は起きないはず・・・たぶん

ああ、やっぱり疲れた。

もうちょつと桜を見てたかったけど、寝るか

・・・風が荒れてきた

桜の花びらが飛んでいく

俺の今の気持ちみたいだ

ぐちゃぐちゃ、気持ち悪い、騒ぎすぎたな

「じゃ、俺寝るから」

「はいはい」

「十一番隊と酒飲むなよ」

「たぶん〜ですね」

桜が散る

風に乗って

俺らもいつか

散るんだろうか

桜吹雪

(後書き)

あああゝ

最後の詩っぽいものに意味はあったのか！？
と思われてそうで怖い・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8172a/>

桜吹雪

2010年10月9日17時45分発行